

お心遣いありがとうございます？



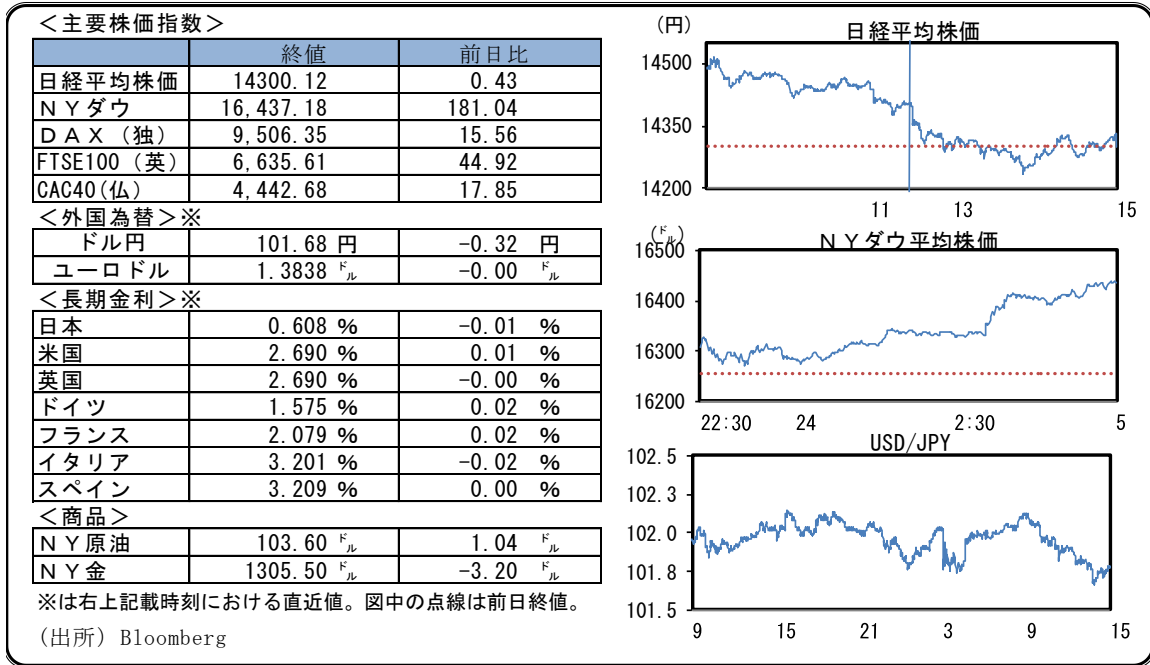
2014年4月10日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

藤代 宏一

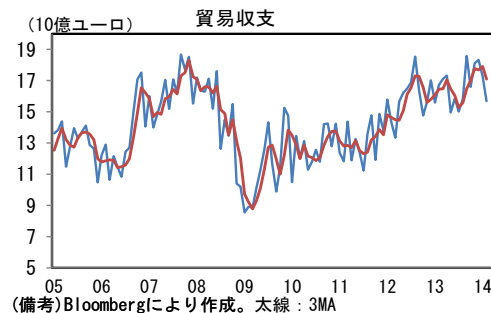
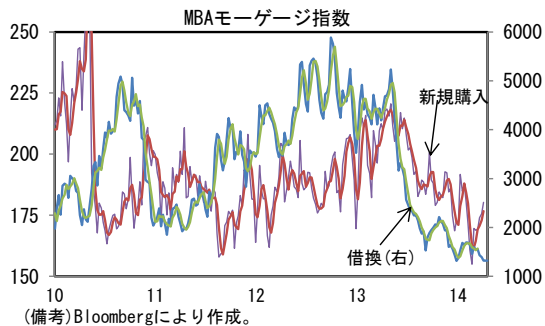
TEL 03-5221-4523

15:50 現在



【海外株式市場・経済指標他】 ～「6ヶ月」見当たらずー安心～

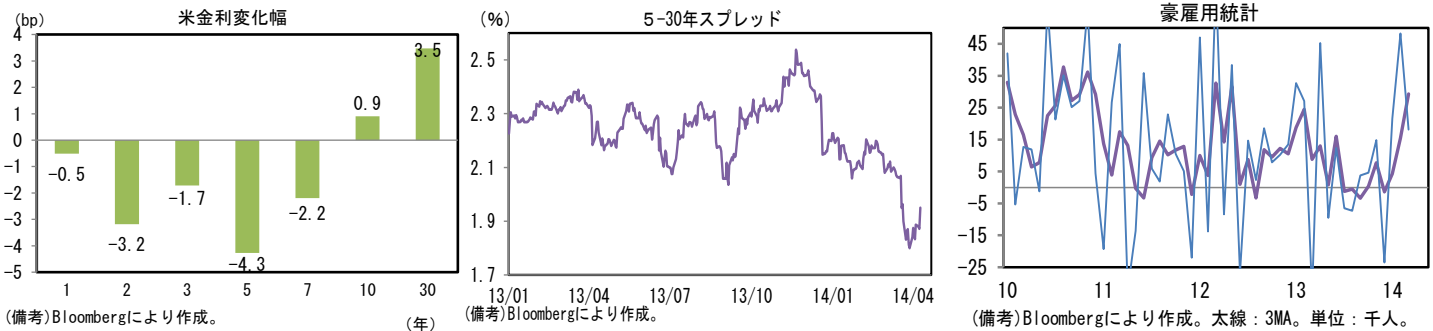
- ・ NYダウ平均株価は前日比+181.04ドルの16437.18ドルで取引終了。FOMC議事録がややハト派と受け止められ議事録公表後から上値追いで高値引け。
- ・ 3月FOMC議事録では「複数のFOMC参加者が政策金利予測の中央値の上昇が予測における変化を過剰に示したと指摘した」との記載があった。また、QE終了から利上げに至る期間として「6ヶ月」との記述は見当たらなかった。イエレン議長の「6ヶ月」発言は単なる失言であったと思われる（詳細は後述）。
- ・ MBA住宅ローン申請指数は前週比▲1.6%と落ち込んだものの、新規購入指数は+2.7%と4週連続で増加し2月の減少を全て取り戻した。
- ・ 2月独貿易統計によると、輸出が前月比▲1.3%、輸入が+0.4%となり貿易黒字は157億ユーロと1月（173億ユーロ）から縮小。輸出は1月（+4.4%）からの反動がみられたが、輸入は2ヶ月連続で過去最高を更新するなど堅調な推移となっている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

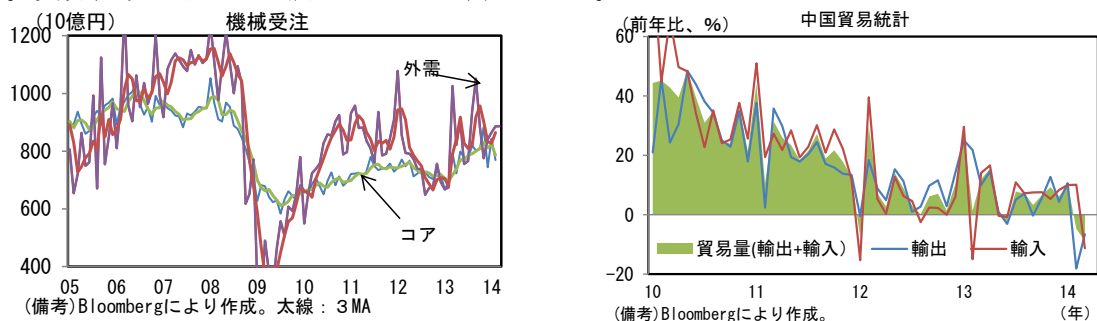
【外国為替相場・債券市場】～米金利スティーピング、ギリシャは復帰～

- 前日のG10通貨はJPYとUSDの弱さが際立った。ややハト派だったFOMC議事録を受けてUSDが全面安となるなか、リスク選好のJPY売りも同程度の盛り上がりを見せUSD/JPYは小幅上昇。北欧通貨、EUR、AUD、GBPが揃って上昇したほか、新興国通貨もほぼ全面高。ドルインデックスは3月FOMC後の上昇を帳消しにした。10日日本時間でUSD/JPYは102を割れた。経済指標では3月豪雇用統計のヘッドラインが非常に強く、AUDが一時的急伸。雇用者数は1.81万人と予想(0.25万人)を大幅に上振れたうえ、前月分も上方修正された(4.73万人→4.82万人)。労働参加率は64.7%と0.2pt低下したものの、失業率は5.8%と0.3pt改善した。
- 米10年金利は+0.9bpの2.690%。一方、5年ゾーンを中心に中期ゾーンは大幅な金利低下となりカーブはスティーピング。5-30年スプレッドは8bpのワイドニング。欧州債市場は区々。株式市場が堅調に推移するなか、コア、セミコアはやや軟調な推移となったが、GIIPS金利はギリシャを中心に低下。ギリシャは4年ぶりとなる5年債の発行計画を発表、10年金利は遂に6%を割れた。



【国内株式市場・経済指標他】～機械受注は辛うじて増加基調維持か～

- 日経平均株価は前日比+0.43円の14300.12円で取引終了。米株高を受けて高寄り後、中国貿易統計を嫌気。
- 2月コア機械受注は前月比▲8.8%と2ヶ月ぶりに減少し、市場予想(▲2.6%)を下振れた。1-2月水準は10-12月水準を僅かに▲0.6%下振れているが、日銀短観の生産・営業用設備判断DIなど各種サーベイ指標を踏まえれば、緩やかな増加基調自体は維持していくとみられる。なお、4四半期連続増加の達成に必要な3月の伸び率は6.7%。達成は微妙なところだ。
- 3月中国貿易統計によると輸出は前年比▲6.6%、輸入は▲11.3%と予想(+4.8%、+3.9%)を大幅に下振れた。3月PMI(CFLP)で新規輸出受注が50を回復するなど明るい兆しがみられていただけに失望的な内容だ。貿易総額でもても基調的な弱さが確認できる。



【注目点】～FEDのお心遣い～

- 3月FOMCの注目点は①イエレン議長の「6ヶ月」発言、②FOMC参加者の政策金利見通しの上方シフトであった。そして昨日発表された3月FOMC議事録のポイントは、①が単なる失言だったことが確認できたこと、②が市場に与える影響をFOMC参加者自身が「金融緩和の効果を弱めるのではないかと心配していたことだ。②については「やっていることはタカ・言っていることはハト」という格好だ。筆者は、こうしたFEDの手法が今後パターン化するのではないかと考える。事実上、新たなフォワードガイダンスとなったFOMC参加者の金利見通しで利上げを織り込ませては、それを“お心遣い”で宥めるという構図だ。